

玄洋社生みの親

# 高場乱の「興志塾」

## 「人参畑塾」と呼ばれたわけは…



報 館

玄洋109号

平成23年4月1日

発 行

社団法人 玄洋社記念館

郵便番号 810-0062  
福岡市中央区荒戸三丁目  
6-36 西公園ハイツ201号  
電話 (092) 762-2511  
FAX (092) 762-2502

### 玄洋社憲則

- 第一条 皇室ヲ敬戴ス可シ
- 第二条 本國ヲ愛重ス可シ
- 第三条 人民ノ権利ヲ固守ス可シ

### 今号の主な内容

- ▽市博物館で「辛亥革命」企画展開催へ
- ▽第2回「松原桜賞」決まる
- ▽進藤理事の「叙勲を祝う会」開催
- ▽「廣田弘毅先生顕彰祭」日程決まる

「玄洋社」生みの親、高場乱(天保二年(1831)〜明治二十四年(1891))が主宰した私塾「興志塾」を、地元、福岡・博多の人たちは「人参畑塾」と呼び、高場乱を「人参畑のばばさん」と呼んで親しんだ。「人参畑」というのは、塾があった場所一帯に、かつて福岡藩の人参畑があったことから生まれた地名だが、どんな人参畑だったのか。地名の由来をたどってみた。

近くに筑前一之宮・住吉「グリーンビル」がある神社がある福岡市博多区博多のJR博多駅を中心に多駅前四丁目四番の「グタビネ」街の一角。博多「人参畑塾」の正面横に多駅前四丁目という地名「人参畑塾」頭山満に彫られた碑が建ち、ここ「興志塾」があったことを示している。「中人参町」「下人参町」



頭山翁揮毫の「人参畑塾趾」の碑

もあつた。この呼称は福岡市が昭和二十七年に公称として定めた町名で、それ以前は藩政時代から「人参畑」といった。福岡藩はここで人参を栽培していた。人参といつても野菜の人参ではなく、高貴業の朝鮮人参だった。

### 竹矢来組み 嚴重に監視

九州のブロック紙、西日本新聞の前身、「福岡日日新聞」に昭和十一年十二月二十二日から二十四回にわたって連載された鹿原山男氏の「人参畑の婆さん」は、人参畑の様子を次のように記している。

（人参畑はもと福岡藩で葉草人参を栽培したところ、御城内の人参畑と犬鳴(いぬなき)福岡県宮若市)の人参畑と共に藩内の三大人参畑の一到に数へられ、今の東領三四丁目の裏から住吉神社裏に亘る

(この間に人参町があつた)一ばん場所のい、上田の一部を劃し、竹矢来に注連縄(しめなわ)を張りめぐらした中に、とても嚴重な監視つきで高貴業人参を栽培したものである。その人参畑の廢れたあとに移つて来て、わが高場乱先生はささやかながらも異色ある経字の道場興志塾を開いた。

また、郷土史研究家、柳猛直氏による地方紙「フクニチ新聞」の連載記事「町名物語ルーツわが町」は、昭和六十年九月二十三日付で、人参畑を次のように紹介している。

（旧藩時代このあたりに人参畑があつたので、地名もそのまま人参畑といつた。地元ではこれを「にじんばたけ」と発音する。ここには福岡藩の朝鮮人参の苗圃があつて、高貴業の原料である人参の苗を育てていた。

十八世紀中ごろの宝暦年

間に幕府が栽培に成功した朝鮮人参の種子を諸国に下げ渡して栽培を奨励している。これを御種人参と称した。大佐だった。

福岡の人参畑も幕府から下げ渡された御種人参を播種育苗したもので、ここには人参方の役人の官舎もあり、嚴重な監視のもとに育種が行われ、これを鞍手郡犬鳴山あたりの畑で栽培したものである。

明治になってから人参畑は廢止されるのだが人参畑の名を一躍有名にしたのは「人参畑のばばさん」と呼ばれた高場乱の私塾「興志塾」であった。

道に立つて碑を眺めている人がいると、通りかかったお年寄りが「ここには元氣もんがそろつたとはい(そろつていたんだよ)」と語りかけてくる。そんなこともある。地元の人たちはきつと今も誇りに思っているのだろう。

今も地域に なじみ深く

碑は、皇紀二千六百一年、昭和十六年三月三十一日に「高場乱先生育英の地」として建立された。高場乱の歿後五十年の命日に際しての建立だ。



# 「辛亥革命」企画展開催へ

## 福岡市博物館

### 玄洋社記念館資料を活用

今年10月に

中国近代国家誕生に道を開いた孫文の辛亥革命から今年百年。福岡市博物館（西憲一郎館長）は、（社）玄洋社記念館が同博物館に寄託している資料を活用して、辛亥革命にちなむ企画展を開催する。



企画展が開催される市博物館

昨年の福岡市議会十二月定例会の一般質問で、玄洋社記念館理事で、同市議会議員の妹尾俊見氏が「辛亥革命の立役者、孫文先生と福岡市はなじみ深い。特別企画展のような形で寄託資料を市民の目に披露できないだろうか」と尋ね、市教育長は「日中両国の人々の交流の歴史を市民に知ってもらうため、来年度（平成二十三年度）を行う方向で検討している」と答弁した。

とし、開催時期は十月いっぱいを予定している。展示物は、写真や書、書簡など玄洋社記念館の寄託資料が七、八割で他は博物館の所蔵資料、という構成になりそうという。

辛亥革命は、明治四十四年（一九一一年）十月十日、湖北省の武昌城で革命派が軍事蜂起した「武昌起義」が発端。頭山満翁はじめ玄洋社の先覚らは物心両面から精力的に支援した。

福岡市の南区役所が募集する第二回「松原桜賞」の入賞作品が決まり、三月二十七日に表彰式が行われた。

### 花守市長・進藤先生の逸話

### 生かされる「心の遺産」

### 第2回「松原桜賞」決まる

同賞は、玄洋社記念館の創設者で元福岡市長、進藤一馬先生が、市民から「筑前の花守」の愛称を贈られる「市民の慈父」と慕われることになった。「松原（ひばる）桜」にまつわるエピソードから伝わってくる「心のふれあい」「いたわり・思いやり」「自然保護」の精神などをテーマにした短歌を全国から募集し、このエピソードを後世に語り継ぎ、南区の誇りにしようという目的で、平成二十一

年、開催時期は十月いっぱいを予定している。展示物は、写真や書、書簡など玄洋社記念館の寄託資料が七、八割で他は博物館の所蔵資料、という構成になりそうという。

で、玄洋社の足跡に関心をもちてもらい理解してもらう展示会にしたい」と語っている。

記念館も各種イベント  
辛亥革命百年に際し、（社）玄洋社記念館も各種イベントを企画、展開することとしている。

福岡市の南区役所が募集する第二回「松原桜賞」の入賞作品が決まり、三月二十七日に表彰式が行われた。

同賞は、玄洋社記念館の創設者で元福岡市長、進藤一馬先生が、市民から「筑前の花守」の愛称を贈られる「市民の慈父」と慕われることになった。「松原（ひばる）桜」にまつわるエピソードから伝わってくる「心のふれあい」「いたわり・思いやり」「自然保護」の精神などをテーマにした短歌を全国から募集し、このエピソードを後世に語り継ぎ、南区の誇りにしようという目的で、平成二十一

年に設けられた。「松原桜」にまつわるエピソードとは昭和五十九年三月にあった次のような話。

同区松原一丁目の蓮根池の脇にあった十本の桜が、道路拡幅工事のため伐採されることになった。計画を知った地元住民が「せめて今年の開花まで伐採を待ってもらえまいか」という主旨の嘆願の短歌を紙に記して桜の木に掲げた。

それを知った進藤先生は、桜を愛する大和心を讃める返歌を詠み、工事の計画は桜を残すように変更された。

同区は「松原桜」にまつ

るエピソードを地域の財産と位置づけ地域振興に役立てようと努めている。松原桜がある蓮根池周辺は「松原桜公園」として整備されている。また「松原桜賞」のほか文化的事業として九州大学大学院芸術工学府と提携しての「松原桜」を主題にした創作ファンタジー劇や新作能も上演されている。進藤先生の「心の遺産」は確実に市民のために生かされているといえそうだ。

短歌の「松原桜賞」には一回目に四千八百八首の、今回の二回目には五千四十三首の応募があった。

今回、最高賞の福岡市長賞の一般の部には、福岡市城南区、山崎碧さんの「病篤き母と最後に見し桜春来れば心の洞に咲きつくぐ」が選ばれた。今回は随筆の部も新設された。

「進藤先生は之に答えて、此時先生は之に答えて、君等の事は君等の事である。君等が改進黨と結んで如何に国民の多数を制したとしても、吾が党に取っては何等の関係がない。天下を挙げて進歩党となったとしても、玄洋社は天下を相手として戦うばかりである。」と一言の下に斥けたので委員はほうほうの態で帰り去りましたが、当時此事が東京に傳はりまするや同士等は、

「進藤こそは九州の侍所の別當である。彼が九州に居る限り吾党は何等の懸念もない。」と言い合われたとの事であります。

進藤先生は三十九年に平岡浩太郎氏の歿後同志の推す所となり、補欠選挙で衆議院議員に選出され次で四十五年の總選挙に政友會の鶴原定吉と戦い、進藤派が無一文で戦ったのに對し鶴原は伊藤公の寵児として官僚財閥の間に重きを為して居り、又豊富な軍資金を散布したので結局進藤派は百十票の差で敗れたのであります。此時鶴原派の後援者であった安川敬一郎は之れを評して、

「鶴原があゝの立場であれ程の金を使いながら、當選したとは言え僅々百票の差に過ぎぬとは情けない。それにしても進藤の徳望こそ驚ろく可きであり。」と言われたとの事であります。

尚ほ進藤先生の人物としての全貌に就ては青年以來死生を共にし兄弟も當ならざる頭山先生の御話がありますが、之れこそ進藤先生に對する金玉の評と信じます。

（この項続く）

（この項続く）

進藤喜平太の思い出・第2部

「追悼録」から

進藤喜平太先生追懷談 葛生 能久

（前号より続く）

此時先生は之に答えて、

「君等の事は君等の事である。君等が改進黨と結んで如何に国民の多数を制したとしても、吾が党に取っては何等の関係がない。天下を挙げて進歩党となったとしても、玄洋社は天下を相手として戦うばかりである。」と一言の下に斥けたので委員はほうほうの態で帰り去りましたが、当時此事が東京に傳はりまするや同士等は、

「進藤こそは九州の侍所の別當である。彼が九州に居る限り吾党は何等の懸念もない。」と言い合われたとの事であります。

進藤先生は三十九年に平岡浩太郎氏の歿後同志の推す所となり、補欠選挙で衆議院議員に選出され次で四十五年の總選挙に政友會の鶴原定吉と戦い、進藤派が無一文で戦ったのに對し鶴原は伊藤公の寵児として官僚財閥の間に重きを為して居り、又豊富な軍資金を散布したので結局進藤派は百十票の差で敗れたのであります。此時鶴原派の後援者であった安川敬一郎は之れを評して、

「鶴原があゝの立場であれ程の金を使いながら、當選したとは言え僅々百票の差に過ぎぬとは情けない。それにしても進藤の徳望こそ驚ろく可きであり。」と言われたとの事であります。

尚ほ進藤先生の人物としての全貌に就ては青年以來死生を共にし兄弟も當ならざる頭山先生の御話がありますが、之れこそ進藤先生に對する金玉の評と信じます。

（この項続く）

▶ 14 ◀

### 今後は世直し人づくりに

#### 進藤邦彦理事の

## 「叙勲を祝う会」開催

平成二十二年秋の叙勲で地方自治分野の功績により「旭日小綬章」を受章された前福岡市議会議員で(社)玄洋社記念館理事、進藤邦彦氏の「受章を祝う会」が一月二十二日、福岡市中央区天神の中華料理店、福新楼で開かれた。

世話人の呼びかけに玄洋社記念館、記念館の創設者・進藤一馬先生主宰の勉強会「励志会」関係者や福岡市関係者、仲良しの仲間など六十人近くが会場を埋めた。

玄洋社記念館の吉村剛太郎理事長が「これからもいろんな形で地方自治に貢献されるように」と祝辞を述べた。記念館理事で同僚議員だった津田隆士、妹尾俊見議員も選挙の思い出など

花束の贈呈を受ける進藤理事



しい」などとおいきつ。高田洋征副市長の音頭で乾杯した。

花束の贈呈もあり、進藤理事は「思いがけない叙勲で驚いている。今後の人生は、玄洋社先覚が培った精神を帯びて世直し、人づくりに関わりたい」と謝辞を述べた。

出席者は、久しぶりに顔をあわす人も交えて、また安部泰宏理事は「進藤理事には、ぜひ玄洋社の伝承に尽力してほしい」と謝辞を述べた。

多く、昔ばなしに花が咲いた。和気藹々の時間が流れた。

### 「廣田弘毅先生顕彰祭」

## 今年は5月21日に齋行

悲運の宰相、廣田弘毅先生のご遺徳を顕彰する社団法人廣田弘毅記念青少年育成会主催の今年の「廣田弘毅先生顕彰祭」は、五月二十一日(土曜日)に齋行されます。時間は午前十一時から。場所は福岡市中央区城内五(福岡市美術館入り口)の廣田先生銅像前。参加費は千円です。詳細は廣田弘毅記念青少年育成会(電話092

762・2511)へお問い合わせください。大勢のご参加をお待ちしています。

廣田先生の銅像の北側約五十メートル、福岡市美術館玄関前に、玄洋社記念館の創設者で元福岡市長、福岡市名誉市民、進藤一馬先生の顕彰像があります。廣田先生の顕彰祭に出席の折にご覧ください。

### 平成23年度

## 会費納入のお願い

今冬は、日本中がかつてなかったような厳しい寒さに見舞われましたが、玄洋社記念館賛助会員の皆様にはご健勝で過ごしのこととお喜び申し上げます。玄洋社記念館は、賛助会員の皆様のおかげをもちまして、昨年先覚顕彰行事など所定の活動を滞りなくすまることができました。

本年は、中国辛亥革命から百年の記念すべき年に当たります。すでに昨年から、日本各地で革命の父と称される孫文に因んだ記念行事や活動があり、マスクミを通じて報じられておりますが、玄洋社も孫文とは革命支援を通じた強い絆で結ばれていたことは皆様ご存じのとおりです。玄洋社記念館も、今年、孫文と辛亥革命を記念する事業の展開を考えています。ご期待ください。

さて、本年も四月を迎えるにあたり、当記念館は平成二十三年度分の賛助会費の受け付けを同月一日から始めさせていただきます。

法人会員の皆様、個人会員の皆様には、景気の先行き不透明な中、誠に恐縮ではありますが、何卒よろしくご賛助をお願い申し上げます。

賛助会費の受け付け要領は次のとおりです。

#### 【賛助会費の額】

▽個人会員 100円

▽法人・団体会員 1000円

納入は郵便振込または銀行振込でお願い致します。振込先は次のとおりです。

【郵便振込】口座番号 01770011200738

【銀行振込】西日本シティ銀行赤坂門支店 普通預金 口座番号0740047

宛名はいずれも「玄洋社記念館」です。

社団法人 玄洋社記念館

建設コンサルタント  
建設事業の計画・調査・測量・設計・施工管理

## ジーアンドエスエンジニアリング株式会社

代表取締役社長 花田 和久  
専務取締役 児玉 和久  
本社 福岡市博多区東比恵三丁目二四一九  
〒八二・〇〇〇七 電話(092) 48113100  
東京支社 東京都杉並区高円寺南一丁目三二一  
〒一六・〇〇三 電話(03) 537815800  
営業所 千葉・浦和・神奈川・山口・佐賀・北九州・大分・長崎

### 鮮魚卸業

## 株式会社 アキラ水産

代表取締役社長 安部 泰宏  
本社 福岡市中央区長浜3丁目11-311  
電話02171116601(代表)  
関連会社/株式会社コウトク水産

## 株式会社 オー・エー企画

代表取締役 入江 秀雄

810-0004 福岡市中央区渡辺通2丁目11-82  
TEL(092) 71118283  
電気ビル本館地下1階  
FAX(092) 71118283

## 造園・緑化 自然とコミュニケーション

## 株式会社 別府梢風園

代表取締役社長 別府 壽信  
本社 〒812福岡市東区青葉一丁目六一五三  
TEL0922691100六七八代  
FAX0922691145五五四  
Email: info@shoufuen.co.jp

## (財)日本医療機能評価機構認定

開放型病院・臨床研修指定病院

特定医療法人

## 原土井病院

〒813-8588 福岡市東区青葉6丁目40番8号  
TEL 092-691-3881(代)  
http://www.haradoi-hospital.com/





# 玄洋社関係史料の紹介

石瀧 豊美

第 51 回

## 宇田川文海『西南拾遺』(二二)

(早稲田大学図書館所蔵)

明治十二年九月刊行

小室信介

宇田川文海編輯

『西南拾遺』巻之五

吉岡大次郎、勇戦 震志、小梅に訣別す。(続き)

又此は箱崎八幡宮の矢除の守札と大(太)宰府天満宮の災難除の守護にはべり。いかで君にはこれを肌に納め玉ひて矢玉の難を避け玉へかし、と紙包二つをし並べて、いと信切に聞えり。

震志も其真心を深く喜び、小梅の背をなでさすりて、世にも嬉しき言の葉を聞くものかな。金殿玉楼の上において、式敵かに妻とし婦めし呼ばる、間にも、婦を捨つる無常の夫あれば、道ならぬ棲かさぬる浮婦さへあるに、浮川竹の流

れの身にて、此くばかり操の堅きは世にもありがたくこそ覚ゆれ。

されど吾此度の挙は、兎ても全う成就すべき事とは思はれず。今にも官軍押寄せ来らば、花々敷戦ひて討死すべく願ふなり。されば汝爰処にありしも、徒味方の足手まじひともならば、在て甲斐なきのみならず、我の死後まで心残りなり。

昔寿永の頃、鬼神と呼ばれ玉ひし木曾殿も、運竭きて粟津原の土となり玉はんとせし時、附従ひし巴女をば強てふり放ち玉ひし例もあり。又赤島の項羽とて力山を抜くとしも呼ばれし猛者も、軍敗れて身死せんとせし時、一人の美姫に名残を、しみて、今の世まで物笑ひとなりぬ。物の例はかくの如し。

願ふは汝も今日の逢瀬を

今生の余波とおもひ、敵の来ぬ間に早く博多へ帰り候へと理り尽くして説諭しつ、少時かたみに語ひけり。時しも彼方にあたりて、一声の喇叭山嵐につれて、

ひうくと耳を貫きければ、陣中俄然として驚き騒ぎ、スハ敵よくと罵る声、いと騒がしう聞えけるにぞ。震志は屹と心付き、すがりし小梅を押しつけ



震志の後世を弔うためにも、と小梅は秋月から逃れた

つ、手早く小銃手に取りて出でんとしつ、ふりかへりて、小梅よ疾くく爰処を立去りぬ。今こそ今生の別れにて候ふぞ、と眼に持つ涙をしぼた、き、見かへりく馳せ出けり。

小梅はあなやと驚きつ、引止めんと駈奇しが、震志は早くも振放して、陣外に出やきたれば、此は如何にせんとばかりに身をもがき、どうと倒れて泣伏したり。

折柄陣外には官賊両軍の放てる大小砲の聲、さながら霹靂の如く、伐り結ぶ刃の光は電光のひらめきわたるかと怪しまれ、砲煙の雲、流血の雨、見るも胆消え、魄も失はる、かと思ふばかりにて、其物凄きこと、いはんかたなし。

小梅はやがて心を鎮め、我斯てあらんには流丸の為

に身を失ひ、夫の後世を弔ふことも能ふまじ。兎にも角にも此場をば程よう逃れて、夫の為ともなる事を、徐かに謀るに如くことあらじ。実に然なりと、独云ひ、独答へて、身を起し、密かに陣後に走り出づれば、幸なるか、両軍共に戦鬪にて誰一人咎むる者もあらざりき。

時よろしと打うなづき、やがて秋月の町端より野道をつたひてひた走りて走りゆき、秋月より四里あまりあゆみて、小倉街道なる飯塚といふ処にぞ着にける。道すがらふりかへり見れば、戦の場所にあたりて黒煙むらくと天に立昇りて、矢叫びの聲は次第く微かになりゆくめり。

我はかく無事に逃来し者の、夫はいかになりゆき玉ふらん。今頃は丸にやあたりて失せ玉ひけん。敵の刃にうたれて、はかなくやなり玉ひけんなど、思ひめぐらしては、ふり落る涙を袖におしつ、み、泣つ、歩み、歩みつ、泣き、後髪ひき戻さる様におほゆるを、斯くては夫の心にも背きなんと、弱るこ、ろを鬼になはたどり来にける。



4里を歩いて小梅がたどりついた飯塚 飯塚宿郡屋跡の碑

かくて小梅は飯塚の駅【えき 宿場の意】にたどり着きて、是より西に足を向けなば、博多の街へはかへるべかりしも、偶乎心に浮びぬるは、我若藤屋の主人には纔に二三日の暇を乞ひ、箱崎・太宰府の両宮へ参籠せしに、其俣内へは帰へらずして、斯く戦場に彷徨身とはなりぬ。然るに今おめくと博多に帰へりなば、若藤屋の家内は更なり、知音の人も皆怪しみて、かにかく詰り問はれんは、いと煩さき事になん。

又福岡方の人々にて、若生擒となりし人あらば、我の事をも官軍に詳に告げんも知るべからず。されば、賊の余類なりとて、捕手を博多に向けらる、事もあらば、楼の主人は如何ばかりか苦みなん。我も亦縛に就くときは、夫の菩提を訪ふことも得能ふまじ。

此は我が此俣に脱走りて何処へか身を隠し、博多の街には無き物となるに如く事なし。実に然なりと、女心に浅はかにもおもひ考がへ、身をひるがへし、小倉街道にさしかりぬ。是十年の四月三日、福岡賊徒の沈滅なせし当日とぞ知られる。